

古民家スタイル

No. 16

Contents 01

Cover Photo / Taro Makimura
Cover Design / Lina Sugimoto (WPP Design Section)



6 過去を未来につなぐ仕事人インタビュー

EI建築設計事務所 / 徳本栄三

26

古民家再生

古民家再生と設備の関係

- 01.神奈川県『浄明寺の蔵』
- 02.東京都『野崎酒蔵』
- 03.奈良県『奈良町の家』
- 04.岡山県『久米南町の家』
- 05.栃木県『むくり屋根の家』
- 06.広島県『A邸』
- 07.岡山県『浜野の家』
- 08.島根県『石州瓦の家』
- 09.大阪府『豊能町の家』
- 10.兵庫県『伊保の家』



古民家スタイル

No.16 Contents 02



74 日本の原風景／写真集

生きている 茅葺き民家

写真=横村太郎



111 癒しの食事処

- 1. 栃木県／レストラン古陶里
- 2. 滋賀県／れすとらん100年民家 黒釜
- 3. 栃木県／KITCHEN 菜胡野家
- 4. 大阪府／天の川 なかなか
- 5. 京都府／ロバ
- 6. 東京都／古民家カフェ こぐま



142 古民家相談窓口

>>> 【連載コラム】

- 10 切り絵で描く古民家。 文=久保 修
- 12 古民家を継承する模型の力 文=菅野清八
- 16 世界の古民家紀行 写真・文=長谷川和男
- 72 東京の伝統工芸巡り。 文=井上雅史
- 94 鬼を巡る旅 写真=大東照男 文=岡田親彦
- 109 につぼんの方言 文=真田信治





3



1

三重県『海の風を感じる家』 現地、移築の2棟を 海辺の敷地に再生

設計施工＝長谷川一仁
再生工房 民家舎 ☎059412412234

志 摩半島南部の英虞湾に位置する賢島。奥島観光の拠点でもある魅力的な地で再生されたのは、住居兼漁業の作業場として使われていた築80年の民家と明治30年造の数寄屋造りの建物。一般に古民家といえは、山や畑とともにある大規模な農家というイメージがあるが「かつて日本人と漁業とは切り離せないものでした」と再生を手掛けた再生工房民家舎の代表取締役・長谷川一仁さん。「農地だけでなく、海辺にも再生に値する古民家が多くあるということを知ってほしいですね。」

2棟の古民家は「外部でありながら部屋のように使える場」を意図して中央に大きな炉を設けたデッキでつなげ、母屋は、和室を板張りに変更して床レベルを一段下げ、囲炉裏の間や薪ストーブのあるダイニングを設けている。移築の数寄屋造りは設備などは付加せず、もとの建物を忠実に再現。当時の空間を存分に楽しめる場とした。古民家には先人が培ってきた日本文化が込められています。日本人の資質が失われつつある今、古民家の再生を通してそれを伝えられたらと考えています。

①写真左の民家が現地再生で、右は石場立ての伝統構法にこだわって再生された三重県四日市からの移築。目の前にはプライベートハーバーがある。②薪ストーブはカナダ製「ハンプトン H300」。再生工房民家舎は、30年以上前から薪ストーブの輸入販売、設置業務を行なう株式会社グランビルの建築部門。古民家再生の現場見学や薪ストーブショールーム訪問でその仕事に触れるのもいいだろう。見学希望の方は ☎0120-40-2234まで。③築80年の民家は、メインの空間を畳から板張りに変更。建具も撤去し大きなワンルーム空間に。見応えのある梁出し天井は既存のまま。

古民家DATA

●家の年齢	築80年(母屋) 築110年(離れ)
●家のつくり	民家(母屋) 農家(離れ)
●家の広さ	敷196坪 延53.7坪(母屋) 延18.9坪(離れ)
●改修の形式	現地再生(母屋) 移築再生(離れ)
●家族構成	別荘として利用



2



6



5



8



7



4

④四間取りの一室を利用した囲炉裏の間。右端に写るのは新発売の壁掛け式暖炉、英国Esse社製の「Fire Wall」⑤2つの古民家で囲むようにデッキを配置し、外部でありながらプライベートな空間に。⑥2階のロフトは天井高が1.5mもない。まさに屋根裏部屋といったイメージのユニークなスペース。⑦薪ストーブを利用したサウナは「実際に本場のフィンランドサウナを体験して、それに近づけて作製しました」と長谷川さん。⑧現地再生した民家は総二階。開口によって目の前の英虞湾の景色が切り取られ、まるでパノラマ写真のよう。⑨移築再生物件の座敷は、床の間や天井板から格調の高さが見てとれる。⑩既存構造をいかしているため、外部への開放感を堪能することができる。



10



9